

堂平器械（HBS）論文問題について

菊池 仙（拓殖大・商）

1. UM02での討論

（1）堂平HBS論文(Kawabata et.al.,PASP,111,898,1999)問題に関する”5人委員会”の最終報告となっているので、UMでの討論は今回が最後と理解している。しかし、十分な時間が確保されず、実質的な討論が行われなかったのは残念である。

（2）著者の意見が全く聞けなかったのは予想外で、最も残念な事である。特に、昨年度UMでの私の意見（著者に論文掲載誌（PASP）で訂正、謝罪を早期に行うように促すもの）について、委員会が著者の見解を質していると委員会から伝えられていただけに失望を禁じ得ない。

2. 委員会報告について / OHP原稿を基に /

（1）経緯その他に関して、一方の主張について他方に質するという姿勢が十分でないと考える。調査の基本的プロセスを怠ったまま、その後の方針を決めていたとは驚く他ない。単純な誤認もあり、私は必要な場合には意見を述べるつもりである。

（2）経緯の中で示された著者の主張に関する部分は、仮にすべてが正しいとしても、論文投稿以前に議論され、必要に応じて論文に記載されるべきもので、以後の著者の行動を正当化する理由にはならない。

（3）問題発生の底流、論文投稿を急いだ理由、投稿後の諸方面の対応（自主撤回可能な時期のものも含む。）などの記述が不十分で、全容を理解するのは困難である。

（4）委員会の活動に関して、基礎となった状況認識とそれに基づく基本方針を明確に記述すべきである。特に、2000年3月初めに、著者から自らの誤りを認めることを知らされた後の対応について十分な説明が必要である。

（5）委員会は著者の非を認めているが、それが今回提示された今後の方針案にどう繋がるのか理解出来ない。状況は極めて単純で、それに応じた行動が求められていると思う。

（6）方針案に関して以下に述べる。

- a. 各項とも現実的とは思えない。委員会の意向は、謝罪を Erratum ですと聞いているが、何故そのような手段が必要なのか理解できない。また、委員会が最初にPASPに接触する必然性は何か。まず、著者が行うのが本筋ではないだろうか。
- b. 予想される訂正の内容から考えて、第2項以下も現実的とは思えない。著者の範囲を広げて解決が期待出来るとは思えない。
- c. 訂正と謝罪は論文掲載誌（PASP）で行われるのが正当である。何らかの理由でそれが不可能な場合（PASPが拒否した場合など）には、他の手段を用いるしかないが、その場合に於いても記録の保持等に配慮が必要である。

- d . 1.(2) で述べた如く、UM01での私の意見に対する著者見解がない段階で、この方針案の提示は理解できない。著者が委員会に対して回答しないことを前提としているのだろうか。
- e . 方針案はむしろ問題を複雑化し、解決を遅らせるおそれが大きい。何よりも論理の明快さに欠ける。委員会は著者の非を認めている以上、率直に対処すべきだと考える。

3 . 解決に向けて / 私の希望 /

(1) 研究・教育の基本的観点から対処することが我々に求められていると考える。この立場で、著者には良心に基づいて、PASP誌上で訂正、謝罪をするために直ちに行動することを切望している。委員会については、明快な論理で方針を明らかにし、迅速に行動するよう期待している。また、" 現在 " の研究・教育は信頼出来るか、が、我々全員に問いかけていることをそれぞれの立場で真剣に考えてほしいと思う。

(2) 問題発生の影響で多くの研究が停止した。その多くは実質的に復活不可能であろうが、中には当初意図したレベルは無理としても救えるものもある。早期に対策を講じてほしい。また、それらの研究活動を直接間接に支えてくれた人達に早急に事情説明がなされるべきであろう。

(3) 現在の状況は極めて単純であり、それに応じた対応が求められている。これまでの対処が近視眼的であったため問題が長期化し、被害が拡大して来たと考えている。問題に真正面から対処することが諸方面で失った、あるいは失いつつある信頼を回復するための最善の道だと信じている。